

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	このき豊田校Ⅱ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～	令和 7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	4名
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～	令和 7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・未就学児から高校生まで幅広く受け入れができており、様々な年齢の人との交流やコミュニケーションの機会を持つことができる。	・同じ年齢層の子どもだけでの関わりにならないよう、遊びに誘ったり活動の際には様々な子との交流ができるよう工夫している。	・事業所内だけでなく、外部の子ども達と交流を持てるような機会を持ちたい。 ・集団遊びの種類を充実させたり、1対1や小グループで行える活動を増やし、集中した関わりが持てるようにしたい。
2	・集団療育の中で様々な体験的な活動（工作・音楽・運動など）を取り入れているため、集団行動を身に付けることができる。	・順番を守る、挨拶をするなどの基本的なことやお友達と遊ぶ時のルールなど、適時伝えている。 ・工作・運動などの活動を通して手先から体全体の発達を個々に把握して活動を展開している。	・SST（ソーシャルスキルトレーニング）を行い、子ども達のスキルを高めている。
3	・「楽しい」「できた」と子ども達の自己肯定感を高めながら成長を促すことができる。	・ちょっとしたことで褒めることを意識している。本人の良いところが伸びるように支援している。	・定期的な研修を行い、質の高い療育が提供できるよう学んでいる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・バリアフリー化が十分でない。（玄関前の高低差）	・賃貸物件であることや現在のところ支障がない。	・その都度、必要な工夫や対策を講じていく。
2	・利用者が増えたことで学校へのお迎え時間に一時的に職員の不足がある。または1校に2人の職員がお迎えの必要がある。	・学校数が多くならないように、利用者の曜日を事前に固定したり、曜日の移動をお願いする。	・保護者とのコミュニケーションを十分にして、協力していただける信頼関係を作る。
3	・感情の変化時、またトラブルが起きた際、落ち着けるようになれたり、周りから1度離れて過ごせる場所が少ない。	・支援室が1階、2階に分かれているため、普段1階の使用がほとんどでこのような際、使用しにくい。	・建物の構造上、別の部屋が難しいので1人空間の確保をしていく。